栽培技術の向上と営農の効率化による持続可能な地域農業の確立（網走農業改良普及センター網走支所）

背　景

【網走市第21地区の概要】

○営農集団による機械の共同利用・共同作業体制が確立

○基幹作物の新品種導入と低収傾向

○高齢化に伴う労働力不足の懸念

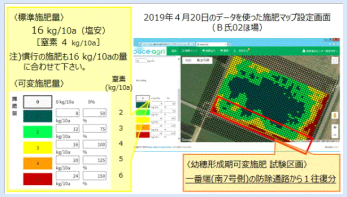
【地域の課題】

○栽培技術改善による所得確保

○効率的で働きやすい労働体系の確立

普及活動内容

○秋まき小麦の可変施肥による生産性向上



可変施肥提案時の資料

○てんさいの栽培管理作業の効率化

○ＧＮＳＳガイダンス・自動操舵装置を利用した管理作業の実施

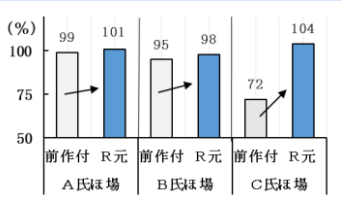
○ばれいしょ施肥方法の工夫による省力化
ＧＮＳＳガイダンスとブロードキャスタによる表層施肥法を組み合わせた施肥時間の短縮

ICTを活用した表層施肥作業

普及の成果

【具体的な成果】

○秋まき小麦
→生育ムラ解消
生産性向上！



地区平均収量対比

○てんさい
→作業精度向上と労働負担軽減を確認！

作業名	時間	精度	疲労	備考
耕起・整地	○	◎	△	掛け合わせ減少、ほ場の利用効率向上
施肥	△	◎	□	施肥位置のズレ解消(誤差±3cm)
移植	△	◎	◎	移植作業状況の把握が容易
中耕	○	◎	○	経験年数に関わらず高い作業精度

◎:極めて効果あり、○:効果あり、△:やや効果あり、□:変わらない(手動対比)

ICT活用による作業効果測定結果

○ばれいしょ
→施肥時間を大幅に短縮しつつ、慣行と変わらぬ収量を確保！

（分:秒）

区分＼作業	直進	旋回	肥料充填	計
慣行(作条施肥)	18:00	2:34	8:43	29:17
表層施肥	3:24	0:21	1:58	6:01

施肥作業時間(分/1ha)

【成果のポイント】

○営農集団体制による情報の共有化により、地区内での意思疎通や波及が速やかに行われた！

（連絡先：網走農業改良普及センター網走支所　TEL　0152-41-0667）